



発行 明治大学マスコミクラブ
〒101-8301
東京都千代田区神田駿河台1-1
明治大学広報課内 MMC事務局
電話 03-3296-4082
FAX 03-3296-4087
e-mail : mmc@meiji-mmc.sakura.ne.jp
URL : www.meiji-mmc.com
発行人 本村 隆
編集 馬淵 豊・梶野 雅秀

昨年12月に国立競技場で行われた大学ラグビー対抗戦の明治大対早稲田大の試合には、取り壊される国立競技場での最後の明早戦ということで、満員に近い観客が詰めかけました。ラグビー部の呼びかけに各OB団体がチケット販売に協力したおかげで久しぶりに明早戦らしいスタンドの光景となりました。MMCでも会員へメールで参加を呼びかけましたので、行かれた方も多々と思います。私もチケットは購入していたのですが、所用でどうしても行けず、実に悔しい思いをいたしました。録画で観戦となりましたが、スポーツがなくなると愛校心の美しさを改めて見た思いがいたします。



会員が満足する、会員のための活動を強化
2014年新年に向けて
MMC会長 本村 隆

さて、MMCの会員数ですが、毎年、大学を卒業してマスコミの世界に入る人がいるわけですから、会員数は増えることはあっても減ることはないように思いますが、必ずしもそうではありません。せっかく入会されてもあまり行事に参加されないうちに足が遠のいたり、会費の未納によって退会扱いとされる方もけっこう多いのです。その一方で、ホームページを見てMMCの存在を知り入会してくれた方が今年度は11名おられました。ホームページを立ち上げたことで、新しい仲間を迎えることができて本当に良かったと思っています。こうした新入会員に入ってもよかったですと言われるためにも、そして、すでに入会いただいている会員にも満足していただけるように、今年は日常的な活動をもっと活発にしていきたいと考えています。昨年はフォーラムを二回、街歩きを一回開催、MMCサロンを3回開催いたしました。こうした企画をより充実させ、多くの会員に参加していただけるようにしていきたいと考えています。新年総会やサマーピクニックなど懐かしい方々と久々にお会いし、昔の話に花を咲かせるのも楽しみではあります。MMCとしてこうした企画の再構築を図り、会員数の増加につなげていきたいと考えています。会員の皆様にはこれまでも増してご協力をお願いいたします。

MMC会員の皆様には、平素より私どもの広報活動にご支援を賜り厚く御礼申し上げます。とくに昨年は、明治大学第四のキャンパスとなった「中野キャンパス」の開校、および二〇〇八年の国際日本学部「総合数理学部」を新設したこと、MMCの皆様をはじめ全国各地の校友の方々には、多大なご尽力をいただき心より感謝申し上げます。



「オール明治」でシナジーを産み出す情報発信を
明治大学経営企画部長 田部井 茂

明治大学は近年、様々な大学改革と教学改革に取り組み、あらゆるステークホルダーに注目を受けてまいりました。そのなかでも四年連続で全国志願者数一位と多くの受験生から支持を受けているのは、こうした改革によって質が向上している「教育・研究」情報を皆様や教職員・校友が一体となつて、積極的に発信してきた社会的評価の現われだと考えています。学内の広報体制も広報戦略本部のもと、広報センターを設け、各学部・大学院・三機構（研究知財戦略・国際連携・社会連携）から広報担当の教員と広報課員が時代に合わせたタイムリーな話題を各媒体で展開してきました。おかげさまで、朝日新聞出版発行の「大学ランキング」で、入試・広報部門が優れている大学として全国二位、さらに日経BP社による「大学ブランドイメージ調査」においても広報活動に力を入れている大学として二位というご評価をいただくことができました。

広報の基本方針としては「学校法人明治大学長期ビジョン」を軸に、法人と教育で目指している「トップユニバーシティ」の実現へ向け、より戦略的な広報を展開するため、学内外の各種機関との連携を強めながら大学全体で情報発信力を高めてまいりました。

今年度の広報活動も、これまで積み上げてきたものを基盤としつつ、明治大学がもつあらゆる広報資産・資源を掘り起こしながら、本学の社会的評価を高める広報展開を実行してまいります。とりわけ昨年以上に強化してまいりたいのが、「パブリシティ」「グローバル広報」と「SNSを用いた広報」が挙げられます。MMC会員の皆様は、マスコミご出身の諸先輩、もしくは活躍中の方々も多く、ぜひメディアでの「パブリシティ」の向上と、海外への知名度とブランド力を高める「グローバル広報」の分野で、協創・協働できないものかと考えております。

全学的な広報を推進し、学外での情報発信力を高めながら、さらにMMCとのネットワークで相乗効果を高めていく。社会に選ばれた大学としての信頼と価値を高めていくためには、広報の諸活動を通じてブランドのステータスを向上させることが必要であり、その過程のなかで広く一般社会や各ステークホルダーと良好な関係を築いていけると思います。

高等教育機関を取り巻く環境も、規制緩和や競争的研究資金の獲得、グローバル化の急速な展開など層層しさを増しており、大学経営の激動的な変革期において、我々も危機感を持って広報を展開しております。これからも「次代を拓き、世界へ発信する大学」として着実に「前へ」進んでまいりますので、引き続き本学の情報発信にご協力賜れまします。幸甚に存じます。

会員寄稿

「永遠の青春」
箱根駅伝の清々しき一

松永二三男 元日本テレビアナウンサー
(1974年政経卒)

1月2・3日両日毎年テレビの前に釘付けになる。トイレ以外動かない。箱根駅伝を見るためだ。新年早々に学生達のひたむきな快走を見ることで自分も「その時だけ青春時代に戻れる」からである。



復路を激走する廣瀬選手(6区区間賞)
写真提供:明大スポーツ新聞

私がテレビ局勤務時代に駅伝を担当した頃の明治の成績は1988年10位、89年11位、90年予選落ち、91年14位、その後13年間も予選落ち。それが95年に松本部長が就任し、2001年西駅伝コーチを招聘。以来10年かけて徐々に実績を挙げてきた。今年も頑張ったが結果は残念ながら総合6位。10人がケガ無く計算通り走ることに難しさを改めて知った。来年こそ66年振り8度目の総合優勝を期待したい。ところで総合優勝した東洋大学

の選手を初め各大学の選手たちがきちんと自分の言葉でインタビューに答えていた。支えてくれた人々への感謝を胸に清々しく答える選手のその姿にも感激した。

さて、昨年9月、プエノスアイレスで開催されたIOC総会で、2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定した。6年後のその年に丁度陸上選手として油の乗る年齢に達する今回の箱根駅伝の選手たち。テレビ中継では「箱根から世界へ」というフレーズを何度も使っていた。実は、今から95年前箱根駅伝を企画した学生たちは、この箱根駅伝を「将来のアメリカ大陸横断駅伝の予選会」として捉えていた。当時の学生たちは世界がビックリする夢を見て、世界を今以上に身近に感じていた。実際大正11年、早稲田と明治の2人がアメリカに渡ってチャレンジャーが途中で失敗した。第一回箱根駅伝は大正9年(1920年)開催。明治・早稲

新会員紹介

田・慶応・高等師範の4校が出場。タスキの色は、早稲田がエビ茶、高師は黄色でスナリ決まった。しかし慶応と明治が「紫」を共に主張し譲らず紛糾。このまま2校は不参加かと関係者は気を揉んだ。「紫色をスクールカラーとした歴史は慶応が明治より古い、そんな事での壮挙がぶれるのは忍びない」と言って慶応は快く明治に「紫色」を譲り、学校と関係ない「青色」を選んで参加した。歴史的な大会を何があっても実行する為に、気を使ってくれた心の広

MMCでは一昨年のHP開設に伴い、新会員の申し込みも増えてまいりました。この一年半で入会された17名の新会員を紹介いたします。(入会申込み順)



坂本 正秀 (サカモト マサヒデ)
1979年 商学部卒

岩手日報社傘下の広告代理店を経て、独立してフリーペーパーの発行。子供達が事業を興した事を契機に上京。新たな仕事を創り出したいと思えます。宜しくお願いします。



小笠原 功明 (オガサワラ ナルアキ)
2000年 農学部卒

學術団体で、編集の業務に従事しており、主に学会誌と医学書を担当しております。



翫部 彰夫 (カリエ アキラ)
1968年 法学部卒

教育研修及び人材サービス業を30年やってきました。今は後進に道を譲りまして、ゴルフやOB会での交流を楽しんでいます。



渡部 玲 (ワタベ アキラ)
2005年 経営学部卒

クラシックをはじめとした音楽番組を専門に作っています。最近では中南米、ヨーロッパを駆け回りながら世

界中の音楽に触れています！若輩者ではありますが、皆様どうぞよろしくお願いたします。



田宮 寛之 (タミヤ ヒロユキ)
1987年 経営学部卒

数年前に「東洋経済HRオンライン」を立ち上げて編集長をしております。小さな会社ですので、記者も兼務しています。2013年11月に拙著「四季報で勝つ就活」を上梓しました。



立花 顕一郎 (タチバナ ケンイチロウ)
1984年 商学部卒

仙台の私立大学と立教大学で英語を教えています。以前は日経国際ニュースセンターで英文記事を書いていました。よろしくお願いたします。



鈴木 義男 (スズキ ヨシオ)
1984年 政経学部卒

大学を卒業し30年近くたった昨年、MMCに入会させていただきました。同窓の方々とこの時は楽しいです。皆様方と人生後半を少しでも豊かにしていけたらと思っています。



上野 雅美 (ウエノ マサミ)
2006年 政経学部卒

放送業界に携わり7年ですが、まだまだ勉強の毎日です。「素直に、謙虚に、誠実に」未熟な自分なりに、初心を忘れず伝え手としての誠意を持ち、放送に携われるよう務めていきたいと思うところです。



堀口 菜純 (ホリグチ マスミ)
2005年 文学部卒

諸先輩方にはいつもお世話になっております。未熟者ですがご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いたします。

- 山口博以 (ヤマカチ ヒロユキ) 1983年 農学部卒
- 堀内敏成 (ホリウチ トシナリ) 1983年 文学部卒
- 堀見 悟 (シオミ サトル) 1979年 政経学部卒
- 高瀬伸英 (タカセ ノブヒデ) 1984年 政経学部卒
- 飛田岳紀 (トビタ タケノリ) 2003年 経営学部卒
- 岩井富士夫 (イワイ フジオ) 1988年 政経学部卒
- 江部律 (エベ マモル) 1984年 工学部卒
- 宮本浩一 (ミヤモト コウジ) 1992年 経営学部卒

リレーで東北から南から

新潟へ赴任、「北国の春」を実感

慶田 久幸 産経新聞社 (1982年政経学部卒)



「雪起こし」という言葉をこ
存じだろうか。昨年12月上
旬、朝から雷が鳴り響き、雨
が降続いた。雷鳴は翌日の未
明まで断続的に続き、雨は時
折、あられや雪になった。冬の
初めに鳴る雷を、雪が降り始
める前触れということ、「雪起
こし」と呼ぶそうだ。

富山県では冬の魚、ブリが
獲れ始めることから、「ブリ起
こし」ともいう。佐渡の人は、
富山へ向かうブリが雷に驚い
て佐渡へ来るので「ブリ起こ
し」と呼ぶのだという。

昨年2月、突然の異動で新
潟支局長として赴任した。初
めての日本海側での生活、初め
ての単身赴任。戸惑うことも
多い。冬の新潟という豪雪と
思いがちだが、新潟市内では
曇りで時々、雪か雨かあられ
が降るとい感じだ。いずれに
せよ、ほとんど太陽を見るこ
とはできない。降っていない

も傘は忘れてはならない。

先日家のベッドの布団を
めくるとカビが生えていた。学
生時代、日本海側から来た友
人が、「冬の東京は太陽が見ら
れてうれしい」と言っていたこ
とを思い出した。その代わり、
春の喜びは格別だ。陽光を思
い切り浴びて、まさに「北国の
春」を実感した。取材と称して
あちこちを歩いた。夏の湯沢
から見た緑の山々、秋の紅葉の
美しさも素晴らしい。

最近、県内外を問わず、「泉
田裕彦知事ってどんな人」とい
う質問をされる。柏崎刈羽原
発電所で、東電の広瀬社長を
問い詰めたあの人だ。ひとこと
で言ってしまうと、非常に理詰
めの人だ。「福島原発事故の検
証が終わらない限り、次の議
論には進めない」。そのとおり
だと思ふ。なぜ起きたか、事故
の把握は、避難指示の連絡は、
被災者の支援は。まったく検
証が終わらないなか、次へ進ん
でいいのか。知事の疑問は正し
いと思う。

新潟へ赴任した多くの人が
異動前、「新潟は酒と食べ物
がおいしくていいね」と声をかけ
られたという。
毎年3月に「にいがた酒の

陣」がある。朱鷺メッセという
大きなホールに、新潟県内90
あまりの酒蔵がブースを出
店。2000円を払うとお猪
口が渡され1日中、日本酒が
飲み放題。酒飲みには夢のよ
うなイベントだ。

昨年、出かけてみた。90ブ
スなら全部回れると思ったが
とんでもない。3分の1も飲ん
だらへ口へ口になった。あちこち
に酔っ払いが寝込み、救急車が
出動していた。とはいえ、酒蔵
の人と語り合い、それぞれの思
いや自慢を知っただけでも取
穫があった。このイベントをぜ
ひ東京で、と県や酒造組合の
関係者に言っているのだが、な
かなか賛同を得られない。コス
トや救急車の出動を考えると
二の足を踏むのも分からない
でもないが、こんな新潟らしい
イベントは他にない。今年は3
月15、16日に開催される。ぜひ
お越しを。

9月6、7日には第50回の
校友会全国大会が新潟市の
朱鷺メッセで開催されます。新
潟でお会いしましょう。



ジェンキンス氏と(2013年8月30日、佐渡島で)

遠くから届いた思いやり

立花 頭一郎 東北文化学園大学 総合政策学部 准教授
(1984年商学部卒)



立花ゼミイタリア研修(前列中央が立花教授)

な機会を得ましたので、今日
はそれについて書かせていただ
きたいと思います。

イタリア旅行の話は私の友
人を通じて突然舞い込みまし
た。イタリア人医師のアルド・
ロカルト氏が放射能被害に苦
しんでいる学生を自宅に招い
てホームステイをさせたいと
言っているというのです。航空
券代の一部も彼が提供してく
れるということでした。ロカ
ルト医師は International
Physicians for the Preven-
tion of Nuclear War (核戦
争防止国際医師会議)の会
員で放射能被害に遭った人々
に対する人道的支援に長年
携わってきました。モンゴルや
アマゾンの貧しい人たちに無
償医療援助活動も行っていま
す。彼は2011年3月の福
島第二原子力発電所の事故に
大変心を痛めていて、被災者
の免疫力回復のために放射能
汚染のないイタリアに招いて
くれたのです。彼の家は世界
的な保養地として名高いコモ
湖から車で30分ほどで、スイ
スとの国境も近く、アルプスへ
と連なる山々を見ることがで
きる絶好のロケーションにあり
ます。

ロカルト医師は毎晩私たち
をおいしいレストランに連れて

行き、食事代もすべて負担し
てくれました。人道的支援と
いうのはここまでするものな
のかと感心しながらも、何か
お礼をしなければという気持
ちが日に日に強くなりまし
た。そして、いよいよ別れの朝、
私たちは事前の相談通り、彼
の活動に対する心ばかりの寄
付金を渡して受け取ってもら
うことができました。

帰国後、私たちにロカルト医
師からうれしいメールが届き
ました。私たちの寄付金をモン
ゴルの子どもたちのための医
薬品購入に使ってくれたとい
うのです。子どもたちが私た
ちのネームカードを持って微笑
んでいる写真も添付してくれ
ました。助けられた私たちが
今度は助ける方にまわり、支
援の輪は簡単に世界に広がる
のだと実感しました。ロカルト
医師は今年の夏も福島の学生
を受け入れたいと言ってくれ
ています。私も微力ではありま
すが、学生たちのためになるプ
ロジェクトを模索し継続してい
きたいと考えています。



モンゴルからの写真

MMCフラワー開催

昨年11月7日、恒例のMMCフラワーをリバイバルで開催。今回は「巨人の星」からのリメイクアニメ「スーラジザ・ライジングスター」をインドでヒットさせた仕掛け人、講談社の古賀さん（1989年商学部卒）を講師に迎えた。テーマは「巨人の星」インドでアニメ化奮闘記。



古賀さんが映像などの資料

講談社が何故インドで日本のアニメの番組事業を？しかも何故「巨人の星」？どうも野球ではなくクリケットが舞台？など、既に話題になり、ニュース等で取り上げられていた情報から感じていた疑問は、講演の古賀さんの話をお聞きして「なるほど」と腑に落ちた。

古賀さんが映像などの資料を駆使して説明されたインドでの番組化のいきさつは、「巨人の星」以上にドラマチックでワクワクする内容で、マスコミの仲間だから打ち明けられる裏事情を含め関係者は実名で

2013年度マスコミ講座開講

MMCマスコミ講座も今年度ではや6年目。今回は前期と後期に若干名募集し35名程度から始まりました。今年度はNHKの渡部ディレクターを講師に加わってもらい、須藤講師と太田講師に隔週ごとにお願いしました。内容的には、私のいつもの作文講座と企画講座、須藤講師に筆記試験対策とグループディスカッション、太田講師に基礎からの面接講座を中心に行っていたいただき、年を重ねることに感じ

ることは、もはやマスコミを就活の第一志望に据えて頑張る学生が減ってきていることです。これも時代の変化ですが、価値観と産業形態の多様化です。それでも相変わらずマスコミ業界企業の採用試験は厳しく、私達講師もてを抜けません。また私達は単に就活のテクニックを教えているのではなく、社会人として実践的に通用する明大生を育てようという自らの時間を削って力を注い

登場。パワーポイントでの説明もドラマ仕立てのようなストーリー展開で、会場の聴衆は固唾を飲んで見守った。

週刊現代、フライデー配属後、仏「Paris Match」誌にて海外研修、その経験から2004年「クリーエ・ジャボン」を創刊を提案、初代編集長を務めたキャリアを持つ古賀氏だが、今回のインドでの事業は明治大学時代にインドで半年間放浪し、病氣やトラブルに遭いながらも、すっかりインドの虜になった経験が源になっていたとのこと。

古賀さんの話は好評に聴えて、本年1月30日のMMC総会後の懇親会でも再度ご紹介して頂く予定で、再びあのワクワク感を皆さんと共有したい。和田哲郎（1977年・政経）

でいるつもりです。

土曜日の夕刻ではありませんが、会員の皆様、是非後輩に叱咤激励をお願いします
大林龍彦（1978年・政経）



武内裕杯紅葉コンペ開催

十月二十日、快晴微風

今回のグレートアイランド倶楽部はその前週、伊藤園レディスが開催され、横峯さくらが吉田弓美子を振り切り優勝したことは記憶に新しいところ。堀さんのメンバーコースでプロアマに出場されたようです。それにしても昨今の若手女子プロはよく飛ばしますね。MMCのメンバーの飛距離と比較すると雲泥の差でした。コースは立地的には千葉県の中央部に位置し、都心からは若干遠いですが圏央道が開通し、以前に開催したときよりアク

セスが良くなっています。皆さんのスコアは別にしてプレーを楽しめる素晴らしいコースでした。また料理がおいしい事でも評判で、昼食、パーティーと満足のいく内容でした。

塩見さん二回目の参加で快挙

このところ新しい方の参加も多く塩見さんもその一人。前回に続き二回目の参加で若さを生かし、見事優勝を果たし武内杯を獲得しました。準優勝は大西さんが入りベスコロも獲得。大西さんのベスコロは近年記憶にありません。梶原さんは今回初参加、成績は本

ピクニック&サロン開催

2013年サマーピクニックは7月19日、母校リバーテイクタワーを望む「銀座アスタールお茶の水賓館」で初開催。一方恒例のMMCサロンも駿河台「アミ」にて、9月6日と11月22日の2回開催。会員同士の輪が広がった。



2013年サマーピクニック

2014年分、年会費5000円納入のお願い

MMCは会員の皆様にお支払い頂いている年会費で運営しております。まだお振込を済ませていない会員の方は、左記金融機関にお振込いただきたくよろしくお願い申し上げます。なおお振込手数料は会の方で負担しますので、振込手数料実費分を差し引いてお振込下さい。

郵便局から振込む場合

記号 10160

番号 84356111

銀行から振込む場合

ゆうちょ銀行

店名 〇一八(ゼロイチハチ)

口座番号 普通

8435611

人としては不本意、今回は優勝か、期待がもてます。梶野さんはメーカーが定位置になりつつあります。頑張りましょう。

春季大会

今回は恒例観核コンペを4月4日、相模カンツリー倶楽部で開催予定です。お楽しみに。会員登録されていない方はご連絡ください。ご案内差し上げます。幹事・楡郁太郎（64年・商）（申込連絡先 090-2247-1121）



前回優勝の宇都さん(左)から優勝杯と武内裕杯を受けとる塩見さん

編集後記

大寒の最中、25年度MMC年次総会無事開催。
元日テレビ松永アナ箱根駅伝で興味ある追憶記事の寄稿。
平成26年の幕開け、第90回大学箱根駅伝は2、3日23校の選手たちが富士山を左右に東海道を疾走、熱戦の火蓋を切った。
毎年、3区(往路)8区(復路)を激走する明大走者を2000m望遠で速写する、63商卒 篠崎行伸カメラマンは沿道を埋め尽くす2000本以上はためく紫紺旗の快感を肌で感じる。明大走者もまた沿道を埋め尽くす歓呼の声にパワーを受けて快走。結果は総合6位に甘んずると噂は来年に委ねられた。明大魂は更に前へ不滅。(馬淵豊)